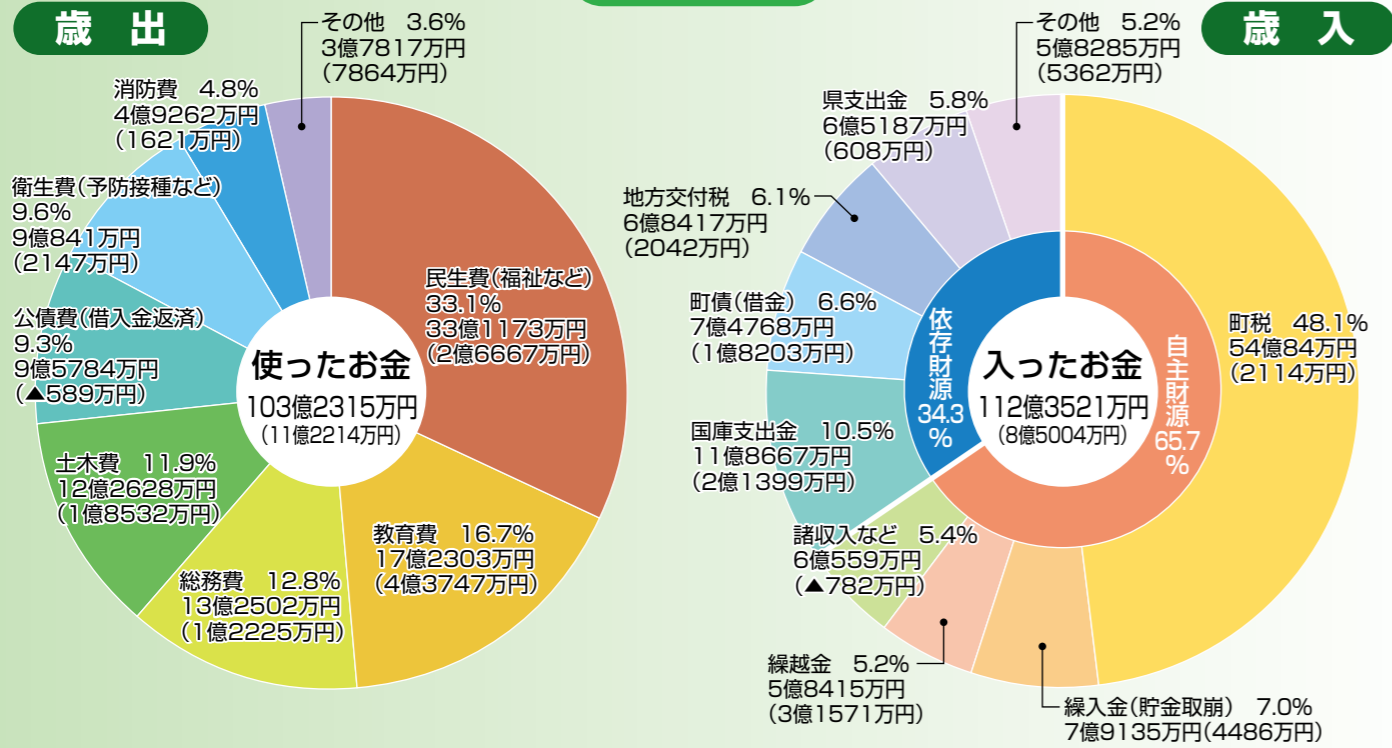


私たちの税金の使いみちは？

一般会計



※ () 内は前年度対比増減 ▲はマイナス
千円以下は切り捨てしているため、合計が合わない場合があります。

※自主財源：町が自主的に収入できる財源
依存財源：国や県により定められた額を交付や割り当てられる財源

平成26年度 決算総額189億6131万円を認定

決算審議の流れ

- 9月1日 本会議で審議開始 → 提案説明・質疑 決算特別委員会を設置
- 9月11日 決算特別委員会で審査開始 → グループ別補足説明・質疑
- 9月15日 決算特別委員会で審査 → 討論・採決
- 9月17日 本会議で審議 → 委員長報告を受けて 質疑 → 討論・採決

▲南中の体育大会

平成26年度決算については決算特別委員会を設置して、9月11・14・15日の3日間で各会計の歳入歳出決算事項別明細書などに基づき審査を行い、全ての会計決算を認定しました。

各会計歳入歳出決算額

会計等区分		歳入総額	歳出総額
一般会計		112億3521万円	103億2315万円
特別会計	国民健康保険事業	44億9076万円	40億9608万円
	財産区	11億1753万円	2114万円
	下水道事業	11億3497万円	11億3497万円
	介護保険事業	19億9182万円	19億3795万円
	後期高齢者医療事業	3億4615万円	3億3566万円
一般・特別会計の計		203億1646万円	178億4899万円
水道事業会計	収益的収支(税込み)	6億5661万円	5億8963万円
	資本的収支(税込み)	1億8778万円	5億2268万円
合計		211億6086万円	189億6131万円

収益的収支：経営活動(水道料金)の収益とこれに対する費用
資本的収支：将来の経営の安定を図るための設備投資などの費用

一般会計とは
一般会計は、行政の基本的な経費(福祉・教育・土木など)に要する経費を町税などを主な財源として経理する会計です。

特別会計とは
事業目的を限定し、特定の歳入歳出で経理する会計です。

財政力指数とは(県平均0.498)
町などの地方公共団体の財政力の強弱を示し、1に近いほど財源に余裕があるとされています。

経常収支比率とは(県平均87.9%)
人件費や公債費など経常的な支出に対して、町税などの経常的な収入がどの程度充当されているのかを示すもので、比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいます。

平成26年度の一般会計と特別会計を合わせた決算額は、歳入が203億1646万円、歳出が178億4899万円です。この決算額を前年度と比較すると、歳入で13億8505万円(7.3%)、歳出で14億9460万円(9.1%)とそれぞれ増加し、決算規模は歳入、歳出とも前年度を上回る結果となっています。

また、決算審査意見書では、財政力指数(過去3年平均)は、平成26年度は0.871となっており、財政力が増えています。他方、経常収支比率は、91.4%で、前年度に比べ硬直化が少し進んでいます。

なお、監査委員より、滞納整理など自主財源の確保や、委託業務の適正化、工事量の正確な把握に努めるようにと指摘を受けています。